

昭和学院短期大学

「Society 5.0 に向けた栄養士・保育者・ ビジネスのための ICT 教育 (数理・データサイエンス・AI 教育)」 自己点検・評価報告書

2025 年 3 月
昭和学院短期大学
ICT 教育センター

【趣旨】

昭和学院短期大学学則第 6 条ならびに昭和学院短期大学自己点検・評価規程に則り、ICT 教育センターが主体となり、「Society 5.0 に向けた栄養士・保育者・ビジネスのための ICT 教育（数理・データサイエンス・AI 教育プログラム）」の自己点検・評価を実施する。

【目的】

本学の建学の精神に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育の充実・改善と活性化を推進し、Society 5.0 に対応できる人材の育成に資する。

【組織】

自己点検評価委員会が毎年行う各センターの自己点検・評価の一環として、ICT 教育センターが中心となって、評価する。また、その評価結果については教育改革委員会分析し、機関レベル、学科・専攻レベル、科目担当者レベルでの改善を促す。

【2024 年度の点検・評価の対象】

2023・2024 年度開講した授業科目「ICT 基礎科目（コンピュータ基礎演習 A と B）」および「ICT 専門基礎科目」と履修学生の学習成果、学生による授業評価を対象とした。

【評価結果の判定】

評価結果に基づき、以下の 4 段階の評価レベルで判定を行った。

- 【4】 優れた点があり、目標は十分に達成できた
- 【3】 良い点があり、目標は概ね達成できた
- 【2】 目標達成が不十分であり改善点がある
- 【1】 目標がほとんど達成されておらず、抜本的な見直しが必要である

【自己点検・評価結果】

1. 教育プログラムの点検・評価

点検項目	結果	評価
数理・データサイエンス・AI 認定制度は本学の建学の精神と教育目的に合致している	本学の教育目的は、「教育基本法及び学校教育法に基づき、「明敏謙讓」の教育理念のもと、職業または実際の専門的な学術技芸を授けるとともに、良き社会人として教養を高め、真に平和を愛好し、人類の文化及び健康福祉の向上に寄与する有為な人材を養成する。」ことであり、本教育プログラムは今後の社会生活及び職業に欠かすことができない基本的な教育内容から構成されている	数理・データサイエンス・AI 認定制度を導入することは中期計画に則った建学の精神を推進することにつながる。 【評価 4】

数理・データサイエンス・AI 認定制度は各学科・専攻のディプロマポリシーに合致している	本プログラムは各学科・専攻の定めるディプロマポリシーに沿っており、プログラムを構成する科目の学修成果は明確になっている。	本プログラムは各学科・専攻の目指す職業に必須の教育内容であり、その取り組みは重要である。 【評価 4】
数理・データサイエンス。AI 認定制度との取り組みは充分である	コンピュータ基礎演習 A とコンピュータ基礎演習 B を必修科目としている点は評価できる。内容については、2021 年度より、コンピュータ基礎演習 B において、厚生労働省より新型コロナ感染者数のデータをダウンロードし、加工・分析するなど実社会におけるデータを利用した。	外部評価委員である高等学校の校長により在学している高校生にはエンドユーザーとしての教育が適しているとしており、本学の授業内容は妥当である。【評価 4】
教育プログラム修了者の進路と活躍状況を把握し、修了者および就職先から意見聴取を行っている	卒業後の進路先のアンケートに ICT 機器の利用に関するアンケート項目を追加した。該当する項目は以下の 2 項目である。 ① 「数値やデータを理解する力」 ② 「PC など情報機器を使う力」	昨年度加えたアンケート調査結果は①に対して「役に立った」「ある程度役に立った」が 70%、②に関しては、76%となっていた。昨年度より評価が上がっている。【評価 4】
評価結果を学内および社会に広く公開している	本学ホームページに掲載している。内容については今後充実していく。	入学式や卒業式でも公表をしている 【評価 4】

2. 授業科目の点検・評価

点検項目	結果	評価
本学各学科・専攻のディプロマポリシーにおける当該プログラムの位置づけを理解し、各学科・専攻のカリキュラムポリシーに則って授業を計画している	全学における担当科目の位置づけを理解し、ICT 教育センターおよびカリキュラム委員会で検討し、数理・データサイエンス・AI 教育の重要性に鑑み、2018 年度から段階的コンピュータ基礎演習 A と B の必修化を図り、着実にカリキュラム計画を実行してきた。また、専門科目においても社会に直結する学びとして各学科・専攻の専門を加味して、ICT 専門基礎科目	カリキュラム計画は順調に進捗している。 【評価 4】

	の位置づけを再度行い、シラバスに反映させた。	
各科目において学修成果と達成目標を掲げ、適切な方法で成績評価が行われている	各科目における学修成果と達成目標ならびに成績の基準と評価手段はシラバスに明確に記載されており、評価は厳正に行われている。	シラバスに明記され厳正に行われている。 【評価4】
成績評価状況等から学修成果獲得状況を分析し、その結果を次期の授業設計に活用している	科目ごとに成績の平均と標準偏差から学生の獲得状況を把握している。また、全科目の成績獲得状況一覧から各科目の位置を知ることができる他、GPA 分布図、学修成果獲得レーダーチャート図等からも比較検討をしている。	各科目についてこれまでの評価システムにおける評価を行っている状況にある。本プログラムとしての視点から評価を行う必要があり、今後の課題である。 【評価3】
授業評価アンケートの結果等を参考に授業の計画、教育方法、評価方法を定期的に振り返り、改善を図っている	本学では全科目について授業評価アンケートを実施し、その結果は学内 Web 上で誰もが閲覧できる。各担当教員は授業報告書に授業評価アンケートの結果を踏まえた改善方法を記載し、ポートフォリオに掲載している。	2024 年度は前期、後期共に実施され、その分析は IR 室から報告されている。 【3】
数理・データサイエンス・AI 教育を支える人的、物的資源を整備している	本プログラムは ICT 教育センターが中心となり、科目を担当する教員は 9 名である。ICT 関連機器ならびに設備については学内 LAN (2021 年度更新)、コンピュータ等基本的な設備は計画的に更新している。また、アクティブラーニングスタジオ等の設備も備えている。	パソコンは概ね 5 年ごとに更新をしている。2024 年度にはハイスペックな PC10 台を更新した。【評価4】
時代の要請に則した授業内容である	数理・データサイエンス・AI 教育は進化の激しい分野である。常に世の中の変化に対応して授業内容を更新する必要がある。各教員の研鑽と FD 活動等によって学内の ICT レベルを向上する必要がある。	FD 活動として、本学全教職員が大学コンソーシアム市川の FD 活動である共同 FD 研修会「数理・データサイエンス・AI 教育の取り組み」に参加した。 【評価4】

